

事項	なしにおける果樹カメムシ類の薬剤による防除法																		
ねらい	果樹カメムシ類の発生は年次変動が大きく、大量に飛来した場合に迅速な防除が必要となる難防除害虫である。本県ではこれまで被害の発生はまれであったが、平成13年に県南地方ではチャバネアオカメムシが5月中旬から9月中旬まで発生し、特に7月1半旬、3半旬、5半旬及び8月3半旬に飛来が多くなり、なしが断続的に加害された。そこで、果樹カメムシ類の被害を回避するため、防除薬剤について知見を得たので、薬剤使用上の参考に供する。																		
指導	<p>1 対象害虫 果樹カメムシ類（主としてクサギカメムシ、チャバネアオカメムシ）</p> <p>2 防除時期と使用薬剤</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防 除 時 期</th> <th colspan="2">防除薬剤・倍数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>園地内への飛来初期</td> <td>MR. ジョーカー水和剤</td> <td>2,000倍</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">飛来初期の防除以降で8月中旬まで発生が続く場合はシンクイムシ類防除時期</td> <td>テルスター水和剤</td> <td>1,000倍</td> </tr> <tr> <td>スカウトフロアブル</td> <td>1,500倍</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8月下旬以降は飛来時</td> <td>MR. ジョーカー水和剤</td> <td>2,000倍</td> </tr> <tr> <td>スカウトフロアブル</td> <td>1,500倍</td> </tr> </tbody> </table>			防 除 時 期	防除薬剤・倍数		園地内への飛来初期	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	飛来初期の防除以降で8月中旬まで発生が続く場合はシンクイムシ類防除時期	テルスター水和剤	1,000倍	スカウトフロアブル	1,500倍	8月下旬以降は飛来時	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	スカウトフロアブル	1,500倍
防 除 時 期	防除薬剤・倍数																		
園地内への飛来初期	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍																	
飛来初期の防除以降で8月中旬まで発生が続く場合はシンクイムシ類防除時期	テルスター水和剤	1,000倍																	
	スカウトフロアブル	1,500倍																	
8月下旬以降は飛来時	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍																	
	スカウトフロアブル	1,500倍																	
参考内容	<p>3 防除薬剤について</p> <p>(1) テルスター水和剤の成分、特性</p> <p>ア 有効成分及び含量：ピフェントリン 2.0%</p> <p>イ 毒性：人畜毒性 普通物、魚毒性 C類</p> <p>ウ 適正使用基準及び適用病害虫名</p> <p>（ア）適用害虫：カメムシ類、シンクイムシ類</p> <p>（イ）希釈倍数：1,000倍</p> <p>（ウ）使用時期：収穫7日前まで</p> <p>（エ）本剤のみを使用する場合の使用回数：2回以内</p> <p>(2) スカウトフロアブルの成分、特性</p> <p>ア 有効成分及び含量：トラロメトリン 1.4%</p> <p>イ 毒性：人畜毒性 劇物、魚毒性 C類</p> <p>ウ 適正使用基準及び適用病害虫名</p> <p>（ア）適用害虫：カメムシ類、シンクイムシ類</p> <p>（イ）希釈倍数：1,500倍（シンクイムシ類：2,000倍）</p> <p>（ウ）使用時期：収穫前日まで</p> <p>（エ）本剤のみを使用する場合の使用回数：5回以内</p> <p>(3) MR. ジョーカー水和剤の成分、特性</p> <p>ア 有効成分及び含量：シラフルオフェン 20.0%</p> <p>イ 毒性：人畜毒性 普通物、魚毒性 A類</p> <p>ウ 適正使用基準及び適用病害虫名</p> <p>（ア）適用害虫：カメムシ類</p> <p>（イ）希釈倍数：2,000倍</p> <p>（ウ）使用時期：収穫14日前まで</p> <p>（エ）本剤のみを使用する場合の使用回数：2回以内</p>																		
期待される効果	なしの害虫防除体系の中で、効率よく果樹カメムシ類を防除できる。																		
利用上の注意事項	<p>1 発生予察情報に留意し防除を行う。</p> <p>2 MR. ジョーカー水和剤は混用事例が少ないので単用で散布する。</p> <p>3 8月中旬以降の薬剤選択はなしの収穫時期に合わせ選択する。</p> <p>4 使用薬剤はピレスロイド系殺虫剤であり、落花期までは訪花昆虫保護のため、使用しない。また、本剤の連用でハダニ類やカイガラムシ類が増加することがあるので、これらの害虫発生には注意する。</p>																		
担当	青森県りんご試験場県南果樹研究センター 病虫肥料部	対象地域	県下全域																
発表文献等	平成12～13年 青森県りんご試験場県南果樹研究センター成績概要集																		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 西洋ナシの果樹カメムシ類に対するテルスター水和剤の効果 (平成12年 青森りんご試県南果研セ)

散布時期 (散布日)	使用薬剤	使用倍数	調査果実数 (果)	被害果数 (果)	被害果率 (%)	薬害
8月下旬 (8/25)	テルスター水和剤	1,000倍	56	6	10.7	—
	無 散 布		41	15	36.6	—

(注) 供試品種：「ラ・フランス」、処理方法：展着剤(新リノー10,000倍)を加用し、8月上旬(8/10)まで、慣行防除を行った園地に散布、調査方法：10/13に収穫し調査

表2 西洋ナシの果樹カメムシ類に対するスカウトフロアブルの効果 (平成13年 青森りんご試県南果研セ)

散布時期 (散布日)	使用薬剤	使用倍数	調査果実数 (果)	被害果数 (果)	被害果率 (%)
7月中旬 (7/18)	スカウトフロアブル	1,500倍	21	1	4.8
7月下旬 (7/27)	スミチオン水和剤	1,000倍	25	20	80.0
8月上旬 (8/7)					
8月中旬 (8/16)	無 散 布		30	30	100.0

(注) 供試品種：「ゼネラル・レクラーク」、薬剤散布：7月上旬(7/5)まで場内慣行散布
調査方法：9/21に収穫し、調査

表3 特別散布を行った慣行防除体系における果樹カメムシ類の防除効果

(平成13年 青森りんご試県南果研セ)

薬 剤 散 布 経 過					被害調査結果		
7月中旬 (7/21)	特別散布 (7/27)	7月下旬 (7/30)	8月上旬 (8/9)	8月中旬 (8/20)	調査果数 (果)	被害果数 (果)	被害果率 (%)
テルスター(水) 1,000倍	MR.ジョーカー(水) 2,000倍	エルサン(水) 800倍	ダズバン(水) 1,000倍	テルスター(水) 1,000倍	48	14	29.2
無散布	無散布	無散布	無散布	無散布	30	30	100.0

(注) 供試品種：「ゼネラル・レクラーク」、調査方法：9/21に収穫し、被害を調査
()：散布日、試験開始以前の散布経過：7月上旬(7/5)まで場内慣行散布
(水)：水和剤

表4 (参考資料) MR. ジョーカー水和剤のカメムシ類に対する防除効果

(平成3年 静岡柑試落葉分場)

供 試 薬 剤	供試倍数	調査果数 (個)	カメムシ類による被害果数率 (%)	薬害
Hoe-498水和剤 (MR.ジョーカー水和剤)	2,000	71	1.7	—
対) MEP水和剤 (スミチオン水和剤)	1,000	67	37.8	—
無 処 理	—	90	52.5	—

(注) 試験場所：浜松市都田町柑橘試験場落葉果樹分場、供試品種：「長十郎」9年生(露地植え)「幸水」4年生(70リットル鉢植え)、処理方法：各1品種1樹を用い各処理区2樹に5/23、5/31及び6/10に散布、試験開始前までは殺虫剤は無散布、調査は7/19に「長十郎」は各樹50果、「幸水」は全果で実施

参考価格：10a当たり450リットル特別散布すると、1回当たり

スカウトフロアブルは約2,750円、MR. ジョーカー水和剤は約3,030円